

韓国の学生

今回の訪問で最も驚いたのが、韓国の学生の英語力です。学生の実に3割ほどが流暢に英語を話し、残りのほとんどの学生が少し止まりながらも十分な会話ができます。留学経験者数が日本の学生より多いということもあるようですが、聞くと授業のスライドの7割以上が英語であり、従って医学専門用語もほとんど英語で学んでいるようです。中には将来アメリカで働きたい、すでにその為の勉強を始めているという志高い学生も数人いました。

日本では英語を流暢に話すとそれだけで驚かれますし、医学専門用語もほぼ日本語でしか覚えていません。もっと私達も英語に慣れ親しみ、グローバルな視点を持ちたいと感じました。

また今回韓国に友達ができたことで韓国を気軽に訪問しやすくなったので、これから長期休みを利用して訪れ、韓国のことをより深く知りたいと思いました。

P B L

私達はP B Lをやったことがなかったのですが、向こうの学生はそれぞれの科目の最初に数時間とってやるそうです。その慣れもあってか、韓国の学生は頭の中の整理がよくついているように見えました。ある症状について、体系立てて「呼吸器系疾患なら〇〇」「消化器系疾患なら××」という様に考えられる病因を列挙する、ということは今までの私達は勉強してこなかったことでした。しかし実際にP B Lに参加してみて、この勉強は今までの生理学や解剖学や臨床形の学問の復習になるだけでなく、「症状を聞いて病気を考える」という実際の臨床で求められることのリハーサルになっているのだと実感しました。

3年生を終えた今、私達の多くが2年次に学んだ生理学の内容を忘れつつあります。全科目とは言わずとも一年に2、3回のP B Lをカリキュラムに取りこむことで、学生の意識を高められるのではと思いました。

P B Lではもう1つ、間違っても意見を述べることの重要性を知りました。あらかじめ「間違ってもいいので何か発言しなさい」と言われてはいましたが、なかなか踏み出せずうろたえていました。しかし一度発言してみると周囲の反応は温かく、間違ってもそれにより1つ議論をすすめることができたことに感動しました。頭ではずっと分かっていたことでしたが、今回のP B Lでようやく初めて自分の殻を破ることができ、これだけでも十分すぎる収穫でした。

写真：PBL中のホワイトボードと、修了証書を受け取った際の記念写真

